

な が し あ み

ぎ よ ぎ よ う

[がいこくじん ぎのうじっしゅうせい よう きょうざい]

だいにほんすいさんかい

はじめに

この きょうざいは あなたがた がいこくの かたがたが
にほんの 「ながしあみ ぎよぎょう」の ぎのうじっしゅうを
うけるときに やくだつように さくせい しました。

なれない にほんごの きょうざいですが みなさんが
わかりやすいように 「ながしあみ ぎよぎょう」について や
さしく せつめいして あります。

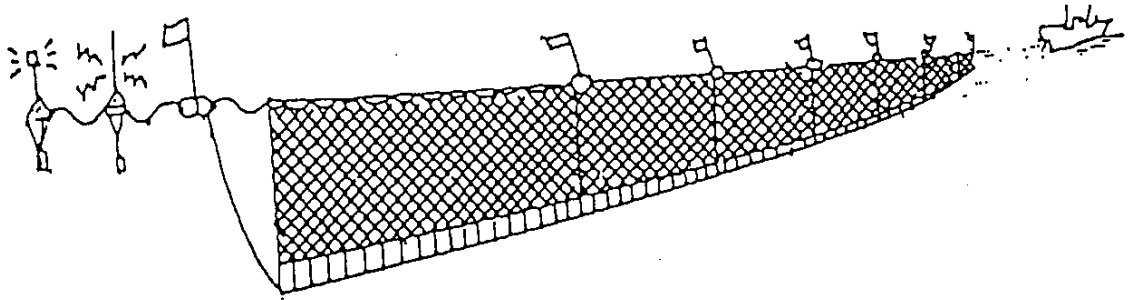
もし わからない ところが あれば ぎのうじっしゅう
しどういんや にほんじんの のりくみんに しつもんして
きそてきな ちしきを いちにちも はやく みに つけて
ください

もくじ

1. ながしあみ ぎよぎょう
2. ながしあみ ぎよぎょうの ぎよぐ
3. ながしあみ ぎよぎょうの ぎよじょう
4. そうぎょう
5. とった さかなの しより
6. きけんの ぼうし

1. ながしあみ ぎよぎょう

ほそながい あみを かいめん ちかくに ながし およいでいる
さかなを とる ぎよぎょうです。



ながしあみでは おもに かつお しいら かじき きめじ (こがたの
きはだまぐろ) めじ (こがたの くらまぐろ) びんちょう (とんぼ) を
とります。

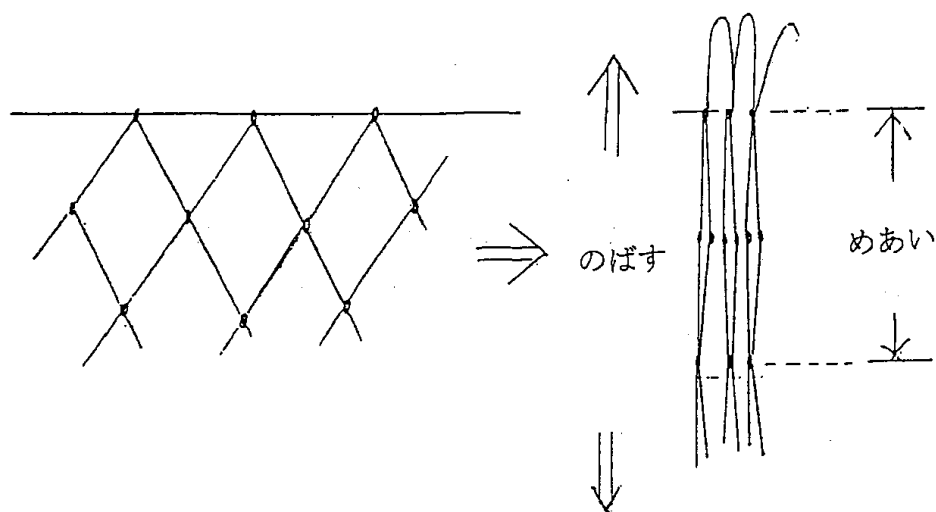
2. ながしあみ ぎよぎょうの ぎよぐ

あみは ほそくて つよく かいちゅうで みえにくい いとで
つくられて います。

かいめんに うかぶように たくさんの あば (うき) を つけた
あばづなを あみじに つけます。

いわづなは なかに なまりの はいった ろーぷを つかいます。

したの えは あみの めあいを しめした ものです。



ながしあみの めあいは 15せんちめーとる (15 cm) いじょうと きめられています。

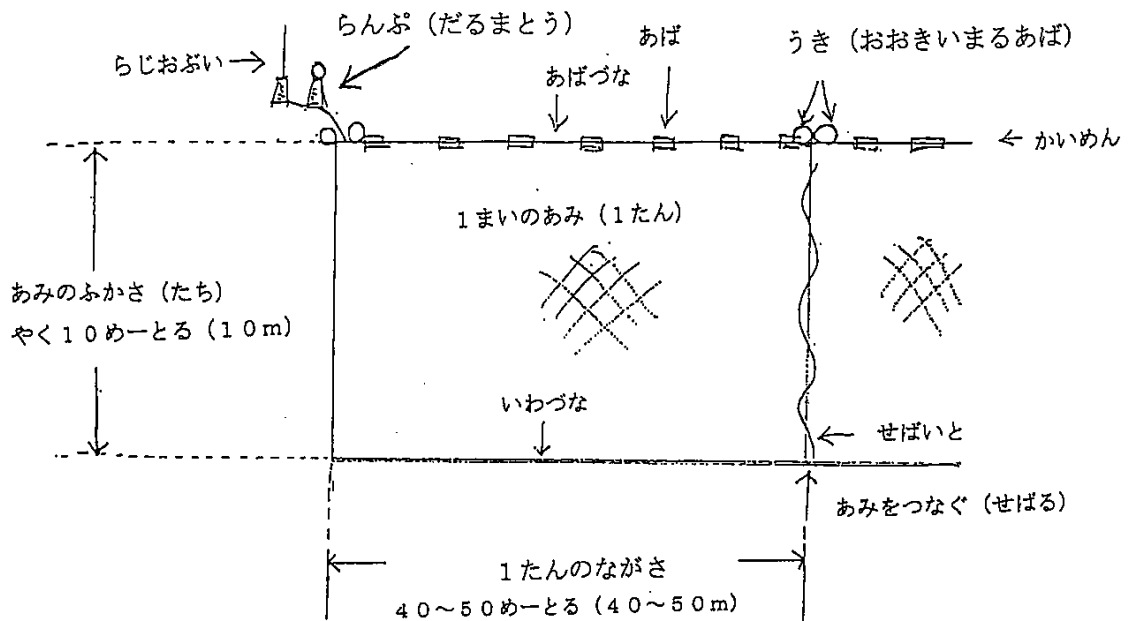
1まいの あみは ながさが 40~50めーとる (40~50 cm) で これを 1たん といいます。このあみを つなぎあわせて かいちゅうに ながします。

あみの ふかさ (たち) は やく10めーとる (10 m) です。

つなぎあわせた あみの りょうはしに めじるしとして らんぷ (だるまとう) と らじおぶいをつけます。

そうぎょうじゅんぴでは 1たんづつの あみを せんじょうで つなぎあわせます。このことを せばるとも いいます。

また つなぎあわせる いとを せばいと といいます。



あばづな いわづなは むすびめが おおきく ならないように かたく むすび ろーぷの はしが あみに からまないように てーぷで とめます。

あみが やぶれたときは みじかい いとを つかって あみが ひきつらないように ちゅういし かえるまで しゅうりします。

おおきな あなが あいた ばあいは べつな あみで ぱっちあて (いれあみ) しゅうりを します。

やぶれたあなが ひじょうに おおきい ばあいは 1たん ぜんぶを あたらしい あみと とりかえます。

3. ながしあみ ぎよぎょうの ぎよじょう

さかなは しおめに あつまることが おおいので ぎよぐんたんちきで
ぷらんくとの むれを みつけたり、ひょうめん すいおんの へんかに
きをつけて ぎよじょうを さがします。

ぎよぐんの うえに とりの むれが いることも あります。

あみは しおの ながれに ちよつかくになるように とうもう
(あみいれ) します。

したがって しおの ながれの ほうこうを みわけることが たいせつ
です。

4. そうぎょう

(1) とうもう (あみいれ)

ぎよじょうに ついたら ともの ろーらーを まわし とうもう
(あみいれ) していきます。

ふねの すび一どを おそくして とうもう (あみいれ) します。
250たん くらいの あみを いれるのに 2じかんくらい かかります。

せんび さげん (ひだりげん) から あがづな、うげん (みぎげん) から
いわづなが うみのなかに はいって いきます。

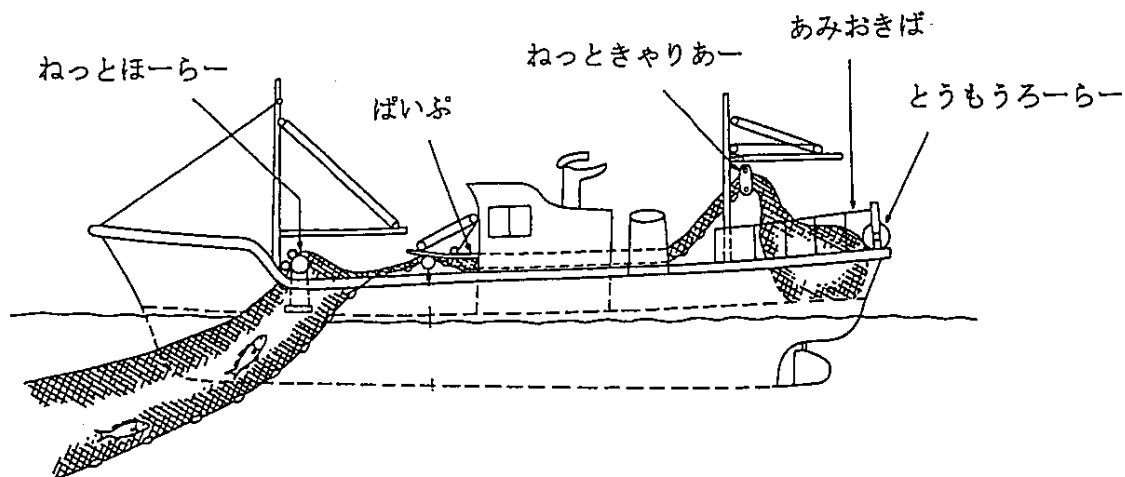
このときに あみが からまずに よくひらくように せんびから
つよい しゃわーを あみに ふきかけます。

とうもう (あみいれ) が おわったら ふねから あみを はなし
ながします。

ゆうがた とうもう (あみいれ) し よる ようもう (あみあげ) します。

(2) ようもう (あげあみ)

あみは さげん (ひだりげん) ななめ まえから あげます。



あみをつよく はらないよう ふねの すびーど かじの とりかた
ねっとほーらー さいどろーらーの かいてんに きをつけて おこないます。

ようもう (あげあみ) に かかる じかんは 5じかんから 8じかん
です。

あみを ゆっくり まきあげながら かかった さかなを はずします。

あみは うげん (みぎげん) よこの ふといばいふを どうし とも
のねっときやりやーで ひっぱります。

とも の きよりやーには さゆう 2くみの ろーらーがあり まえと
うしろ みぎと ひだりに うごく びーむに とりつけられています。

ばいふから ひきだされた あみは さげん (ひだりげん) に あばづな
うげん (みぎげん) に いわづなが くるようになっています。

これらは まえとうしろ みぎとひだりに うごく びーむによって
からまずに せんびでつきに つまれていきます。

5. とった さかなの しより

さかなを はずすときには きずをつけないように ていねいに
とりあつかいます。

かじきるいは つの えらと ないぞうを とり、みずあらいし いただいた
ごおりを かけて ほぞうします。

しいら かつお きめじ めじ びんちょうは せんべつして ぎょそうの
なかにある みずごおりの はいった たるに たてて ならべます。

6. きけんの ぼうし

とうもう (あみいれ) のときは あみや ろーぷに あしが からまれない
ように ちゅういします。

とうもう (あみいれ) のときや ようもう (あげあみ) のときは かいてん
している ろーらーに まきこまれないように ちゅういします。